



## 笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

### よりよい自分を創る

1. いつでも相手の挑戦を受けて快く立ち上がること
2. 相手を投げたらすぐひき起し、砂をはたいてやること
3. 万一反負けたらにっこり微笑むこと

この3つのモットーを実行したと言われているのは、昭和の名力士、横綱の玉錦。玉錦は、相撲界で偉業を成し遂げた人物であるとのことですが、素晴らしい人格の持ち主であったとも言われているとのこと。こんなエピソードが紹介されていました。

ある晩、弟子たちが、玉錦の輝かしい勝利についての写真や新聞記事を嬉しそうに持ってきた時に、語った言葉…。

「私が一人前の相撲とりになれたのも、実は母親のおかげである。母は、自分に次の言葉を語った。『土俵において大切なことは、全力を尽くし最善を尽くして戦ったという確信である。勝って人から褒められることもけっこうなことであるが、勝つことだけが大切なことではなくそれだけで心は満足するものでもない。全力を尽くすこと。そして勝負を気にしないこと。』。この言葉を片時も忘れず、塩をつかんで土俵に上がる時、いつもこの母親の言葉を念仏のように唱えている。」

(引用：「朝の心」：川部金四郎 著)

今年度の運動会のテーマは、「全力って楽しい！心を燃やせ！運動会」ですが、子供たちが、運動会に向けて考えたテーマ

の背景にある「一人一人が熱い心を持ち、一生懸命に取り組み、がんばることでやりがいのある運動会にできる」という思いは玉錦が大切にしていた思いと繋がるものがあります。人の心を動かす本質の部分は、いつの時代においても変わらない普遍のものであると思いました。

運動会終了時には、徒競走も含め、最終的に、赤白で勝敗がつきますが、勝った時負けた時に味わう気持ち、それをどのように受け止めるのか考えていくこと、また、赤白の勝敗に表れない表現に向けた取組や当日の演技を振り返ることで感じる思い等一つ一つが自分を創り上げる学びとなります。また、5・6年生は、全員が係活動を行い、運動会を支えています。運動会に向けて、準備も進めてくれています。下学年を支える高学年の子供たち、そして支えられた下学年の子供たち、それぞれの繋がりの中でお互いが成長していく場面もあります。

自分の成長…それは、自分自身の気づきや努力、頑張りがあったからこそであり、認めていきたい大切なことです。また、そのことに加えて、そこに至るまでの過程において多くの人達との繋がりの中で出あってきた思いや支えがあるからこそ、自分が創られていくという視点も大切に子供たちと向き合っていきたいと思えます。

運動会という大きな行事の中に散りばめられている一つ一つの活動を通して、子供たち一人一人がよりよい自分を創り上げていくことができるよう支えていきたいと思えます。